

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representation of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY

As rescanning documents *will not* correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-055450

(43)Date of publication of application : 26.02.1999

(51)Int.Cl.

H04N 1/00

H04L 12/54

H04L 12/58

H04N 1/32

(21)Application number : 09-212224

(71)Applicant : MURATA MACH LTD

(22)Date of filing : 06.08.1997

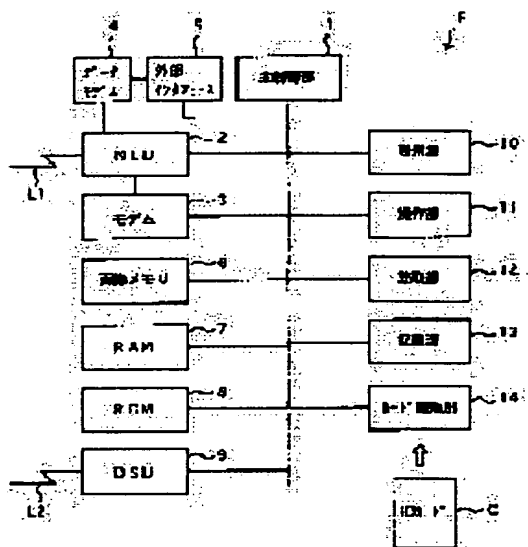
(72)Inventor : EGUCHI MASAFUMI

(54) COMMUNICATION TERMINAL EQUIPMENT WITH ELECTRONIC MAIL FUNCTION

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To permit plural users to respectively register a sufficient number of opposite parties in spite of the restricted number of buttons and to conveniently execute usage by providing an operating means provided with the plural buttons for designating destination addresses and a storage means registering the destination addresses at every user code as against the respective buttons of the operating means.

SOLUTION: The destination addresses at every user code are registered as against the respective plural buttons for designating the destination addresses, which are provided in an operating part 11, in RAM 7. That is, the user codes are inputted as a number, etc., by the tenkey pad of the operating part, etc., and a register as against a one-operation button is made to be possible when the inputted user codes are previously registered. Thus, the respective users change-over respective button functions into the ones for themselves so as to use them only by registering the destination addresses to be used by themselves as against the respective buttons.



(10) 日本国特許庁 (P) (12) 公開特許公報 (A) (11) 特許出願公開番号

特開平11-55450

(23) 公開日 平成11年(1999) 2月26日

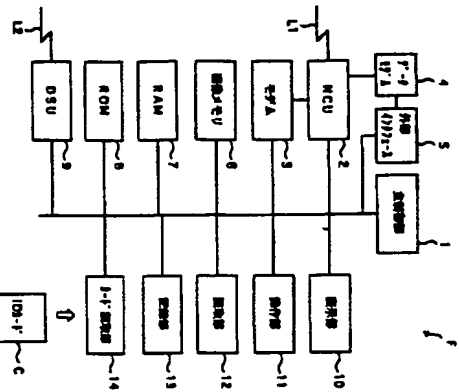
出願番号		F1	
(51) Int. Cl. ⁴	分類記号	H04N 1/00	107Z
H04N 1/00	107	H04N 1/32	F
H04L 12/54	12/54	H04L 11/20	101B
12/58			
H04N 1/32			

特許請求 発明者 請求項の数 3 OL (全 9 頁)

(21) 出願番号	特開平9-212224	(71) 出願人	000006297 村田無線株式会社 京都府京都市南区宮科町南番町3番地 江口 段史 京都府伏見区竹田町代町138番地 村田無線株式会社本社工務内 (70) 代理人 弁理士 中井 宏行
(22) 出願日	平成9年(1997) 8月6日		

(54) 発明の名称 電子メール機能付通信端末装置

(67) 【要約】
【課題】 限られたボタン数であっても、複数のユーザのそれぞれが充分な数の用字先を登録し、便利に使用することができる電子メール機能付通信端末装置を提供する。
【解決手段】 コンピュータ通信網を接続可能とし、宛先アドレスを指定する複数のボタンを有した操作手段11と、操作手段11の各ボタンに対し、ユーザコード毎の宛先アドレスを登録した記憶手段7とを備える。



(2)

【特許請求の範囲】
【請求項1】 コンピュータ通信網を接続可能とした通信端末装置において、
宛先アドレスを指定する複数のボタンを有した操作手段と、
上記操作手段の各ボタンに対し、ユーザコード毎の宛先アドレスを登録した記憶手段とを備えた電子メール機能付通信端末装置。

【請求項2】 上記記憶手段に登録した宛先アドレスを、ユーザコード毎に一覧印字する印字手段を更に備えた請求項1に記載の電子メール機能付通信端末装置。

【請求項3】 上記記憶手段には各宛先アドレスに対応した宛先名称を登録可能とし、上記操作手段の各ボタンに対し、上記宛先名称を表示する表示手段と、入力されたユーザコードに対応した宛先名称を上記表示手段に表示し、上記ボタンの押れが操作されたときには、そのボタンに対応した宛先アドレスに対して通信を開始する制御手段とを更に備えた請求項1に記載の電子メール機能付通信端末装置。

【発明の詳細な説明】
【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、コンピュータ通信網との接続を可能としたフロッピー装置などの電子メール機能付通信端末装置に関する。

【0002】
【従来の技術】 インターネット等のコンピュータ通信網は益々利用される傾向にあり、近頃では、一般家庭においても利用する人が増えている。そこで現在では、コンピュータ通信網への接続を可能とした通信端末装置が開発されており、そのうちの1つである電子メール機能付フロッピー装置では、登録をされた宛先宛先、フロッピー装置、あるいは、電子メール送信のいずれかによって、相手のフロッピー装置やパソコンなどに送信できるようになっている。

【0003】 即ち、宛先データの送信時に、フロッピー送信を選択したときには、電話網などを使用して直接、宛先データを送信する。一方、電子メール送信を選択したときには、宛先データを電子メール形式に変換し、このデータをネットワーク上のメールボックスに格納する。これを受信側が多くが、ダイヤルアップ接続によって、適当な時期に電話回線経由でコンピュータ通信網を接続し、電子メールが到着していれば、メールボックスから宛先データを取り出して、装置内の宛先メモリに格納(ダウンロード)している。

【0004】
【発明が解決しようとする課題】 ところが、上記従来の電子メール機能付通信端末装置では、複数のユーザが使用する場合、各ユーザが相手先の電子メールアドレスや電話番号(フロッピー番号)などを指定するために操作するボタンの数が不足していた。特に、電子メールの

宛先アドレスは、企業内でも個人に割り当てられているもので、各ユーザが予め使用する宛先アドレスを複数登録しておく、これをボタン操作で指定するには、装置のボタン数が不足する不都合であった。

【0005】 例えば、ワンタッチボタンを30個備え、ページブレーキを用いてボタンの機能を2通りに切り換えるようにしている場合でも、60の相手先メールアドレス指定できないので、これを10人のユーザが使用すれば、1人当たり6個のボタンしか割り当てられず不都合であった。本発明はこのような事情に鑑みて提案されたものであり、限られたボタン数であっても、複数のユーザのそれぞれが充分な数の用字先を登録し、便利に使用することができる電子メール機能付通信端末装置を提供することを目的としている。

【0006】
【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために提案される請求項1に記載の電子メール機能付通信端末装置は、コンピュータ通信網を接続可能としており、宛先アドレスを指定する複数のボタンを有した操作手段と、操作手段の各ボタンに対し、ユーザコード毎の宛先アドレスを登録した記憶手段とを備えている。

【0007】 これによって、各ユーザは、各ボタンに対して、自己が使用する宛先アドレスを設定しておくことができる。すなわち、各ボタンの機能を各ユーザ毎に切り換えて使用することができる。なお、コンピュータ通信網には、インターネットや、パソコン通信サービスであるNIFTY-Serveや、PC-VANなどがあり、本発明の通信端末装置は、これらの通信網のサービスの1つである電子メールアドレスを使用できるようになっている。

【0008】 請求項2では、記憶手段に登録した宛先アドレスを、ユーザコード毎に一覧印字する印字手段を更に備えている。請求項3では、記憶手段には各宛先アドレスに対応した宛先名称を登録可能とし、操作手段の各ボタンに登録させた宛先名称を表示する表示手段と、入力されたユーザコードに対応した宛先名称を表示手段に表示し、ボタンの押れが操作されたときには、そのボタンに対応した宛先アドレスに対して通信を開始する制御手段とを更に備えている。

【0009】 すなわち、キー操作やIDカードの挿入などによって、ユーザコードを入力すれば、各ユーザが使用する宛先名称が一覧表示され、この表示された宛先名称に対応したいずれかのボタンを操作すれば、この宛先名称のアドレスに対して、電子メールの送受を行うべく、通信を開始する。

【0010】
【発明の実施の形態】 以下に、図面を参照して本発明の実施の形態を説明する。図1は、本発明の電子メール機能付通信端末装置の内部構成の一例を示すブロック図である。ここでは、本発明の通信端末装置の1つである電

(3)

メールアドレスのフランクシリ装置Fの構成例を示すが、これに限定されることはなく、データ通信機能を得たパーソナルコンピュータ等であってもよい。

【0011】このフランクシリ装置Fには、公衆回線網を介して行方従来のG3、G4のフランクシリ通信機能に加えて、コンピュータ通信網を介した通信機能を得ており、以下には、コンピュータ通信網の1つとして、インターネットを使用し、インターネット上で電子メール(e-mail)サービスを利用する場合を説明する。

【0012】主制御部1は、CPU等で本装置の制御手段を構成し、このフランクシリ装置Fの各部を制御するだけでなく、後述する符号化及び復号化、画像変換、バイナリ・テキスト変換、メール編集などの各処理を実行する。NCU2は通信回線L1(アナログ回線)の閉結、開放を行う。モデム3はフランクシリ通信のために信号の変調、復調を行う。データモデム4は電子メールを送受信するために信号の変調、復調を行う。外部インターフェース5は、パソコン等の他の端末装置を接続するためのであり、接続したパソコン等によるフランクシリ通信や電子メールの送受信を可能にする。なお、G4のフランクシリ通信などのデジタル通信時には、DSUを介して、ISDN回線L2等を介して通信が行われる。

【0013】画像メモリ6はDRAM等で構成され、送受信する画像データを一時的に記憶する。RAM7は本装置の記憶手段を構成して、各ユーザ毎に複数の宛先アドレスの記憶を可能にする。プロバイダの電話番号や、インターネットにログオンするためのユーザID、各ユーザの電子メールアドレス等を登録し、また、処理の実行時に発生する一時的なデータを記憶する。ROM8はこのフランクシリ装置Fの動作に必要な制御プログラムなどを記憶する。

【0014】表示部10は液晶表示装置などで本装置の表示手段を構成し、このフランクシリ装置Fの動作状態やメニューデータを表示する。操作部11は、少なくとも、宛先アドレスを指定する複数のボタンを有して本装置の操作手段を構成し、更にデフォルトの各種キーを備えて、このフランクシリ装置Fに対し各種入力設定を行う。記録部12は、CCD等で原稿を読み取り、白黒2値のイメージデータを出力する。記録部13は、電子写真方式などのプリンタで本装置の印字手段を構成し、他のフランクシリ装置から、あるいはインターネットを介して、受信したデータをイメージデータにして記録(印字出力)する。

【0015】カード読取部14は、ICカードなどで構成されたIDカードを読み込み、図2は、図1に示したフランクシリ装置F内のデータの流れを模式的に示したものである。この図中の各節は、図1には存在しないが、

ROM8に記憶されたプログラムに基づいて、主制御部1によって処理されるものとする。

【0016】符号化復号化部1aは、記録部12で読み取ったイメージデータをMIME、MR、MMR等の符号化方式によって符号化、あるいは、符号化データを記録部13によって印字出力するために復号化する。以下、符号化されたデータを「符号化データ」と呼ぶ。画像変換部1bは、電子メールの送信時に、符号化データを、コンピュータで用いられる一般的な画像フォーマットである、TIFF(Tagged Image File format)に変換する一方、受信時には、TIFFから符号化データに変換する。

【0017】TIFFは、Adobe社によって公開されており、白黒2値だけでなく、白黒多値、フルカラーなどを扱う様々なclassが定義されている。その中の1つには、フランクシリ画像を扱うclass Fが定義されており、符号化データに対して、最初にclass FのTIFFヘッダ情報の付加を行えば、TIFFに変換できる。以下、class FのTIFFヘッダ情報が付加された符号化データを「TIFFデータ」と呼ぶ。

【0018】テキストメール編集(テキストデータの電子メールのみを扱う編集)から送られて来るメールは、JIST単位符号や7ビットASCIIコードのテキストコードで構成されているため、バイナリ・テキスト変換部1cは、キャラクタジェネレータ(不図示)を使用してテキストデータをイメージデータに変換する一方、OCR機能(文字認識機能)を使用してイメージデータをテキストデータに変換する。

【0019】更に、バイナリ・テキスト変換部1cは、電子メールの送信時は、バイナリデータをテキストデータに変換する一方、受信時には、テキストデータをバイナリデータに変換する機能を果たす。インターネットは、バイナリデータの電子メールを扱うことが出来ないコンピュータを接続している場合があるので、相手先にに対し確実に電子メールが届くようにするには、TIFFデータなどのバイナリデータは、送信時にテキストデータに変換する必要がある。

【0020】インターネットで扱うテキストデータは、IETF(Internet Engineering Task Force)が実行するドキュメント、RFC(Request For Comments)822において、7ビットのコードとして規定されているが、MIME(Multipurpose Internet Mail Extension)のbase64などを利用すれば、バイナリデータをテキストデータに変換できる。なお、base64とは、8ビット×3バイトのバイナリデータを6ビット×4バイトと見なし、各々のバイトに対し、キャラクタコードを割り当てることにより、バイナリデータをテキストデータに変換する符号化方式である。

【0021】つまり、バイナリ・テキスト変換部1cは、テキストデータとイメージデータを相互に変換する

(4)

機能と、TIFFなどのバイナリデータと互換的なテキストコードを相互に変換する機能とを合わせ持つ。メール編集部1dは、電子メールの送信時は、テキストデータを記憶されたTIFFデータなどにメールヘッダ情報を付加して電子メール形式に編集する一方、受信時には、電子メール形式のデータからメールヘッダ情報を取り除き、テキストデータのTIFFデータなどにする。

【0022】ここに、メールヘッダ情報とは、インターネットの電子メールの所定のヘッダ情報のことであり、送信するデータの先頭に、「From:」、「To:」、「Subject:」、「cc:」、「Date:」などの項目を付加することが規定されている。このように電子メールを送受信したときには、データは上記各部1a~1dを経由するが、フランクシリ通信のときには、符号化復号化部1aのみを経由することになる。

【0023】本装置では、RAM7内に、操作部11に配けられた、宛先アドレスを指定するための複数のボタンの各々に対し、ユーザコード毎の宛先アドレスを登録しておくことができる。したがって、各ユーザは、各ボタンに対して、自己が使用する宛先アドレスを登録しておけば、各ボタンの機能を自己用に切り替えて使用することができ、図3。

【0024】図3には、宛先アドレスの登録時の動作をフローチャートで示している。ここでは、宛先アドレスを指定するためのボタンの1つとして、1回の操作のみで宛先の指定と同時に宛呼が自動的にできるワンタッチボタンに対して登録する場合を示している。まず、ユーザ認証のため、操作部11のデフキヤードで、ユーザコードを番号などで入力し(100)、この入力したコードが予め登録されていたものであれば(101)、ワンタッチボタンに対する登録を可能とする。すなわち、RAM7には、予め、この装置Fの使用、あるいは、ワンタッチボタンの使用を許可するユーザのコードが登録されている。

【0025】ワンタッチボタンを選択し、そのボタンに対して登録するメールアドレス(宛先アドレス)を入力する。そして、他のボタンに対してもメールアドレスを登録するときには、同じ動作を繰り返す(102~104)。このようにして登録されたものをRAM7内のワンタッチデータの構成は、図4に示すようになっている。すなわち、各ユーザコードに対して、ワンタッチボタンA、B、C、...に対応した宛先アドレスが登録される。

【0026】なお、このデータの構成は、記録部13によって一貫印字することができる。すなわち、記録部13からは、登録された宛先アドレスが、ユーザコード毎、ボタン毎に一貫印字される。次に、各ユーザ毎に宛先アドレスが登録された状態で通信開始手順について説明する。図5は、表示部10と操作部11で構成される操作パネルの部分的模式的に示している。

【0027】ここでは、表示部10には、各宛先アドレスの宛先名称が宛先名称表示部10aとして表示されるようになっている。このため、RAM7(ワンタッチデータ)には各宛先アドレスに対応した宛先名称を予め登録している。また、宛先名称表示部10aは、操作部11のボタン11a(ワンタッチボタン)と対応するよう表示されている。

【0028】主制御部1は、操作部11のデフキヤード(不図示)などによって、ユーザコードが入力されたときには、ユーザコードに対応する宛先アドレスの宛先名称を一覧表示させる。そして、ボタン11aの何れかが操作されたときには、そのボタンに対応した宛先名称のアドレスに対して通信を開始する。すなわち、宛先アドレスに対して、予め記録部12から読み取った原稿画像を電子メールで送信したり、宛先アドレスからのボーリング受発信を行う。

【0029】ここでは、表示部10に表示できる宛先名称は5つである場合を示しているが、これに限定されることはなく、また、テキストキー11bを操作して、ボタン11aの機能(通信相手となる宛先名称)を順次切り換え、宛先名称の表示を変更できるようにしてもよい。なお、RAM7には、相手の電子メールアドレス以外に、電話番号(フランクシリ番号)を各ユーザ毎に登録しておくことができ、以下には、この場合のフランクシリ装置Fの動作について説明する。

【0030】図6は、その登録時の動作を示したフローチャートである。なお、ここでは、表示部10をワンタッチパネルで構成し、このワンタッチパネルが宛先アドレスを指定するためのボタン(ワンタッチボタン)の機能を兼ね備える場合を示している。また、ユーザコードを、操作部11からの入力だけでなく、IDカードからカード読取部14で読み取って、登録できるようにもなっている。

【0031】操作部11から予め登録済みのユーザコードを入力。あるいは、IDカードからユーザコードを読み込んだときには(200~203)、ワンタッチボタンの表示をパネル上に一貫表示する(204)。登録対象とするボタンを押下すると(205)、パネル上の操作メニューに示したがつて、順に、相手先名称(宛先名称)、電子メールアドレス、電話番号を入力する(206~211)。すると、この入力データがRAM7内のワンタッチデータに、対象としたワンタッチボタンに対して登録される(212)。他のボタンに対する登録を継続するときには(213)、ステップ204~212の動作を繰り返す。

【0032】図7は、このときのワンタッチパネル(表示部10)への表示例である。(a)は、図6のステップ208における表示であり、ワンタッチ番号106を指定した後に、操作メニュー10b(アドレス)を入力して下さい)を表示している状態を示している。ここで、

(6)

エンターキー10cをタッチ操作すれば、(b)の画面に切り換わり、宛先アドレスの文字入力が可能になる(図6のステップ209参照)。図中の10dが入力されたアドレスを順次表示する表示域であり、この表示域10dに表示されたアドレスを登録アドレスとして確定するときは、エンターキー10eをタッチ操作すれば、(a)の画面に戻る。但し、このときの画面内操作メニュー10bには、次の操作を指示する「電話番号を入力して下さい」が表示される(図6のステップ210参照)。

【0033】以上のようにして、RAM7内のワンタッチチャートに登録された内容は、図8のようになる。すなわち、各ユーザコード番号毎に、複数のワンタッチ番号のそれぞれに対し、メールアドレス(宛先アドレス)、電話番号(フランクシリ番号)、宛先名称が登録される。なお、この登録内容も、記録部13から一覧印字でき、確認が容易にできるようになっている。

【0034】次に、各ユーザ毎に宛先アドレスなどが、図8のように登録された状態での通信開始手順について、図9のフローチャートとともに説明する。ここでは、ユーザコードを、IDカードからカード読取部14で読み取ることによって、表示部10に表示する宛先名称などをユーザ毎に異ならせることができるようになっている。

【0035】操作部11から予め登録済みのユーザコードを入力、あるいは、IDカードからユーザコードを読み込んだときには(300〜303)、このユーザコードに対応したワンタッチチャートをRAM7から読み出し、ワンタッチパネル上に宛先名称を一覧表示する(304、305)。そして、ボタンの何れかがワンタッチ操作されたときには、そのボタンに対応した宛先のメールアドレスあるいは電話番号を表示し、メールアドレスあるいはフランクシリ送信を開始する(306〜310)。

このとき、メールアドレスとフランクシリ送信の選択は、予め行っていた操作部11の操作に従って行ってもよいし、先に、宛先アドレスを一覧表示し、次に何らかの操作を記録部13の電話番号の一覧を表示して、いずれかの表示画面において選択できるようにしてもよい。

【0036】

【発明の効果】以上の説明からも理解できるように、本発明の請求項1に記載の電子メール機能付通信端末装置は、宛先アドレスを指定する複数のボタンの各々に、ユーザコード毎の宛先アドレスを登録できるようになっ

ているので、各ユーザは、各ボタンに自己が使用する宛先アドレスを設定し、各ボタンの機能を切り換えて使用することができる。すなわち、この装置にボタン数以上の宛先の登録ができることとなり、複数のユーザの各々が、自己に合わせて各ボタンを使用できるようになる。

【0037】請求項2では、登録した宛先アドレスをユーザコード毎に一覧印字するので、登録内容が容易に確認できる。請求項3では、各ユーザは、ユーザコードを入力すると、自己が使用する宛先名称が表示され、この表示された宛先名称に対応したボタンを操作すれば、この宛先名称のアドレスに対して、通信を開始できる。通信時に宛先を一目で確認することができるので、操作性が向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る電子メール機能付通信端末装置の内部構成の一例を示したブロック図である。

【図2】図1の通信端末装置内のデータの流れを示した模式図である。

【図3】図1の通信端末装置の宛先アドレス登録時の動作の一例を示すフローチャートである。

【図4】ワンタッチパネルの構成の一例を示す図である。

【図5】操作パネルの部分構成を模式的に示す図である。

【図6】図1の通信端末装置の宛先アドレス登録時の動作の別の例を示すフローチャートである。

【図7】宛先アドレスの登録手順を説明するための図である。

【図8】ワンタッチパネルの構成の別の例を示す図である。

【図9】図1の通信端末装置の通信時の動作の一例を示すフローチャートである。

【符号の説明】

F・・・電子メール機能付フランクシリ装置

1・・・主制御部

7・・・RAM

10a・・・表示部

11・・・操作部

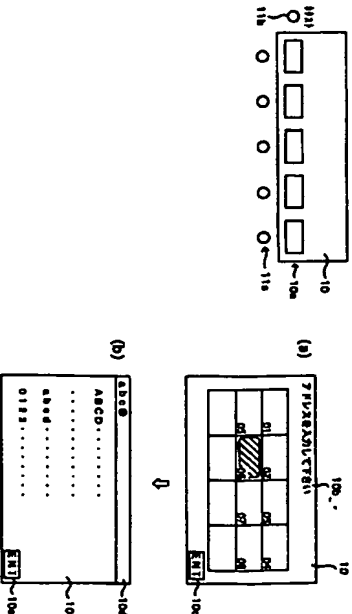
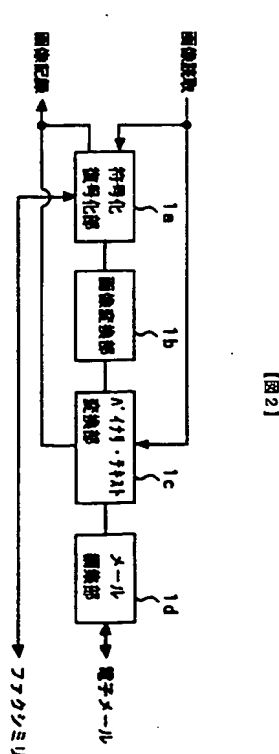
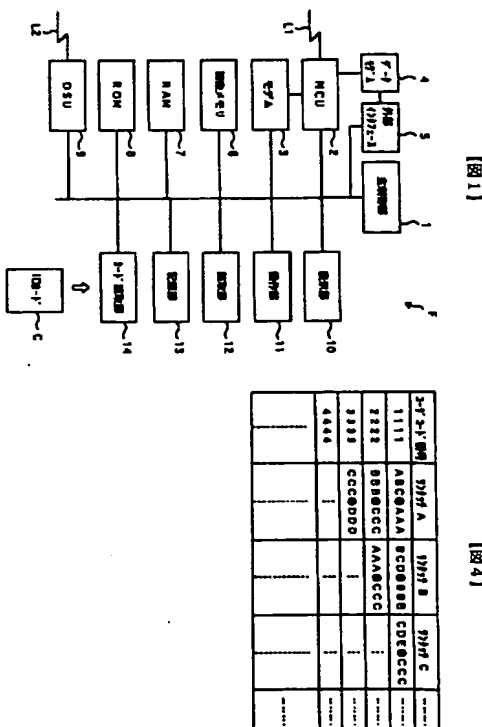
11a・・・ワンタッチボタン

13・・・記録部

14・・・カード読取部

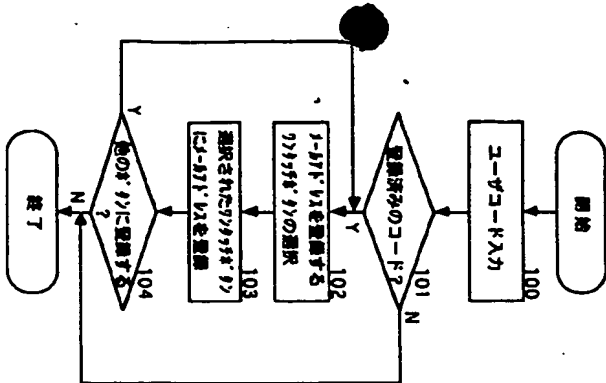
C・・・IDカード

(6)



(7)

【図3】

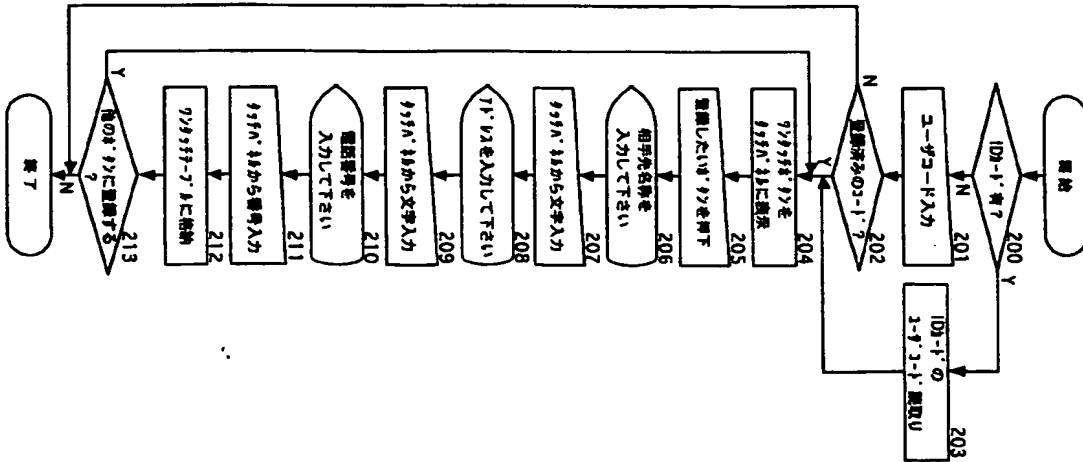


(8)

【図8】

ユーザコード	パスワード	電話番号	所在地
01	00000000	01-345-6789	A B C, D E
02	00000000	02-333-1234	X Y Z, I J K
1111	01000000	01-123-4567	0 F G H I J K L
	02000000	02-123-4567	0 F G H I J K L
1112			

【図6】



(9)

[図9]

